

## 広島県フロラ覚書(6) 広島県に自生するスゲ属植物に関する新知見\*

一橋賢三<sup>1)</sup>・近藤芳子<sup>2)</sup>・斉藤隆登<sup>3)</sup>・井上尚子<sup>4)</sup>・世羅徹哉<sup>4)</sup>

日本産のカヤツリグサ科スゲ属には200種以上が記載されており、高等植物の中では属内の種数が最も多く、乾燥地から湿地、日向から陰地まで生態的に様々な場所に生育している(星野ほか2002)。広島県内のスゲ属植物の分布を調べることは、広島県をより深く理解することにつながると期待される。

広島県に自生するスゲ属植物については、高木哲夫が1945年までに75種、4亜種、20変種、4品種(広島市植物公園(編)2005)、Okamoto(1965)が72種5変種、土井義夫(1983)が67種13変種を報告し、江塚・松本(1985)が福山市周辺で52種6変種を報告している。その後も県内の自生植物について解明が進み、87種12変種、1品種のスゲ属植物の自生が確認されている(広島県植物誌1997、広島県植物誌補遺2010)。ところが、2010年以降も広島県新産種や希少種の新産地が発見されるなどの新知見があったので、ここにまとめて報告する。

新知見の記載は、以下の要領で行った。

1. 星野・正木・西本(2011)の配列に従って、種ごとに列記した。
2. 学名は星野・正木・西本(2011)に従ったが、一部は勝山(2005)を引用した。
3. 引用した文献のうち、次の3点は「略称」で記した。①広島市植物公園(編)2005:「高木リスト」、②広島大学理学部附属宮島自然実験所・比婆科学教育振興会(編)1997:「広島県植物誌」、③世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫2010:「植物誌補遺」。
4. 各種の記述は、学名、和名、「逸出」等の情報、備考、引用文献、産地と引用標本、<>内に、広島県植物誌と植物誌補遺に記載された産地、という順序で行った。尚、標本のhbgは広島市

植物公園に、HIRO-MYは広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所に、OKAYは岡山理科大学に保管してあることを示す。

### Sect. *Grallatoriae* ヒナスゲ節

#### *Carex grallatoria* Maxim. ヒナスゲ

広島市佐伯区の自生地は、標高1050mの山の北斜面で、海拔950mあたりから山頂付近まで分布し、樹林下の巨大な岩上に、マット状に生育していた。岩の上面には腐植がたまり、本種のほかにヤマシグレ、ダイセンミツバツツジ、コックバネウツギ、ツクバネソウ、ヤマグルマ等の生育が認められた。生育地は、ミズナラ、クリ、コハウチワカエデなどからなる落葉広葉樹林であった。今回の自生地はすでにOkamoto(1965)が報告しているが、広島県植物誌編集時には標本が確認されなかったため掲載されなかった。著者らは2011年5月20日に雄株、雌株の生育を確認した。

(文献)高木リスト, Okamoto(1965), 正木(2011)  
(標本)広島市佐伯区湯来町(hbg-20257, hbg-20271; 星野卓二 同定)

### Sect. *Rarae* ハリスゲ節

#### *Carex fulta* Franch. ニッコウハリスゲ

ブナ帯の湿地や流水域に生える多年草。Okamoto(1965)が庄原市口和町の自生を報告しているが、広島県植物誌編集時には標本が確認されなかったため掲載されなかった。今回報告する自生地の海拔高度は550mで、上部中間温帯に属す(鈴木ほか1979)。自生地は林縁にある流水沿いの湿潤地で、近くにはサクラソウやホソバナアマナ、タマツリスゲ、コジュズスゲなども生育していた。

(文献)Okamoto(1965)  
(標本)庄原市東城町(hbg-20226, hbg-20234; 星野卓二 同定)

\*Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.94

1) 広島市植物公園ガイドボランティア, 2) 広島市安佐南区長東, 3) 広島市立東野小学校, 4) 広島市植物公園 Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No.30: 1-6, 2012

**Carex capillacea Boott** ハリガネスゲ

広島県内に広く分布することが知られていたが、広島県植物誌編集時には標本が確認されなかったのが掲載されなかった。

(文献) 高木リスト, 土井 (1983), 江塚 (1994), すげの会 (編) (2009b)

(標本) 廿日市市吉和 (hbg-15118), 廿日市市佐伯町 (hbg-18790), 安芸太田町戸河内 (hbg-18912), 東広島市豊栄 (hbg-19899), 広島市安佐南区 (hbg-19977), 庄原市東城町 (hbg-20132; 星野卓二 同定), 北広島町芸北 (hbg-20106; 星野卓二 同定)

**Sect. Phleoideae** ミノボロスゲ節**Carex nubigena D. Don ex Tilloch et Taylor subsp.****Albata (Boott ex Franch.) T. Koyama** ミノボロスゲ

広島県植物誌では未確認種として掲載され、星野ほか (2011) では、分布域は岡山県以东となっている。著者の一人、斉藤が広島県内で自生を確認したが、スキー場の周辺の吹き付け植栽周辺であったことから、逸出の可能性がある。

(文献) 高木リスト

(標本) 北広島町芸北 (hbg-20110; 星野卓二 同定)

**Sect. Vulpinae** オオカワズスゲ節**Carex stipata Muhl. ex Willd.** オオカワズスゲ

戦前の記録があるが、これまでの調査では標本が確認されていない。2002年頃、佐藤克則によって確認された。本種は、東ロシアや北アメリカにも分布し、日本では北海道、本州の中部地方以北に分布の中心があり、鳥取県と広島県に隔離分布する (星野ほか 2011)。発見当初、自生地が空港に隣接していることや、周辺の法面には移入とされる「イワヨモギ」の生育が見られたことなどから、人為的な要因で入ってきた可能性が考えられた (佐藤克則 私信)。今回の調査で、自生地の周辺にジュンサイ、ガマ、ヤチカワズスゲ、コシロネ、タチスゲ、アブラガヤ、サクラバハンノキなど湿地性の植物を確認したが、オオカワズスゲが自生か逸出かの判断はできなかった。

(文献) 高木リスト, すげの会 (2010), 星野ほか (2011)

(標本) 東広島市河内町 (hbg-20243; 星野卓二 同定), 三原市本郷町 (OKAY-21835)

**Sect. Remotae** ヤブスゲ節**Carex planata Franch. et Sav. var. planata** タカネマスクサ

北海道~九州に分布し、平地から山地に生育するところがある (勝山 2005)、広島県内ではこれまで、中~東部にしか自生が知られていなかった。今回の標本採集地は、広島市の北西部で、広島県西部に位置する。この生育地は舗装されていない林道沿いの少量の流水が見られる周辺で、ミゾソバやイボクサ、アシボソ、アキノウナギツカミ等と共に生えていた。付近には、アラカシ、リンボク、ヤブツバキなど常緑広葉樹が見られた。

(文献) 高木リスト, Okamoto (1965), 土井 (1983), 江塚・松本 (1985), 広島県植物誌, 植物誌補遺, すげの会 (編) (2010), 正木 (2011)

(標本) 広島市安佐北区瀬谷 (hbg-20184; 星野卓二 同定) <西城町, 吉田町, 帝釈峡, 総領町>

**Sect. Graciles** ナキリスゲ節**Carex autumnalis Ohwi** オオナキリスゲ

日本では本州の近畿地方以西、四国の限られた地域に分布し、国外では中国に記録がある (星野ほか 2011)。広島県ではこれまで県東部でのみ自生が知られていたが、今回、広島市の南部や呉市の自生が確認された。

(文献) 高木リスト, Okamoto (1965), 土井 (1983), 植物誌補遺

(標本) 呉市 (hbg-19274), 広島市南区 (hbg-19496) <神石町, 福山市>

**Sect. Phacocystis** アゼスゲ節**Carex maximowiczii Miq. var. levisaccus Ohwi** ホシナシゴウソ (広島県新記録)

ゴウソの集団に混じって見られるが、個体数は少なく、分布域も限られる (星野ほか 2002)。これまで広島県内の自生の記録がないが、ゴウソと区別されていない可能性も考えられる。

(標本) 廿日市市佐伯町 (hbg-20070), 廿日市市極楽寺山 (hbg-20064)

**Sect. Mundae** ミヤマジュズスゲ節**Carex dissitiflora Franch.** ミヤマジュズスゲ

Okamoto (1965) らによって知られていたが、広島県植物誌編集時には標本が確認されなかったのが掲載されなかった。

(文献) Okamoto (1965), 江塚・松本 (1985)

(標本) 庄原市東城町 (hbg-20142; 星野卓二 同定), 廿日市市吉和 (hbg-20160; 星野卓二 同定)

**Sect. Rhomboidales ヒエスゲ節*****Carex laticeps* C. B. Clarke ex Franch. オオムギスゲ**

国内では本州（愛知県、瀬戸内海沿岸）、四国（小豆島）の、日当たりの良いやや乾燥した場所にまれに見られ、国外では朝鮮半島、中国に分布する（星野ほか 2011）。この分布型は広島県の南東部から岡山県の南西部を中心とした限られた地域にしか分布せず、国外では朝鮮半島、中国に分布するという点で、前川（1949）がいう「阿哲要素」の植物の特徴と一致する。岡山理科大学の星野研究室ではその系統地理学的研究に取り組んでいて（星野 私信）、その謎が明らかにされることが期待される。

（文献）高木リスト、土井（1983）、江塚・松本（1985）、植物誌補遺

（標本）尾道市因島（hbg-19871）＜福山市、三原市＞

***Carex papillaticulmis* Ohwi アオバスケ**

広島県内でこれまでに確認されている自生地は広島市の東郷山と大峯山（未発表）で、それぞれ海拔800mと920mであり、上部中間温帯もしくはブナ林域（広島県植物誌）に位置した。今回の調査地は海拔高度520mで、下部中間温帯に属す場所であった（鈴木ほか 1979）。

（文献）広島県植物誌

（標本）廿日市市佐伯町（hbg-20165；星野卓二 同定）  
＜東郷山＞

**Sect. Mitratae ヌカスゲ節*****Carex* sp. ウスイロヒメカンスゲ（広島県新記録）**

瀬戸内海の島嶼部や沿岸地域に広く分布する。ヒメカンスゲとは葉が明るい緑色で、苞の鞘は淡緑色、雄鱗片と雌鱗片の先端は凹状であること、雌鱗片は淡緑色、染色体数は $2n=32$ であることなどで区別される（星野ほか 2011）。この分類群は未記載で、これまで広島県植物誌ではヒメカンスゲの人里型、勝山（2005）ではヒメカンスゲの瀬戸内タイプと呼ばれていたものである。

（標本）福山市鞆（hbg-19800）、福山市山野（hbg-16360）、広島市佐伯区（hbg-16327）、世羅町（hbg-19917）。3点とも星野卓二 同定。

***Carex multifolia* Ohwi var. *pallidisquama* Ohwi アオミヤマカンスゲ（広島県新記録）**

山地のやや湿った林床に生える。ミヤマカンスゲ

の染色体数は $2n=30, 60, 62, 64-66, 70$ だが、アオミヤマカンスゲは $2n=72$ で、ミヤマカンスゲとは鱗片が淡緑色、基部の鞘が淡褐色であることなどで区別される（星野ほか 2011）。これまで広島県内でミヤマカンスゲと同定していたものに、アオミヤマカンスゲが含まれている可能性がある。

（標本）福山市（hbg-16349；星野卓二 同定）、広島市佐伯区（hbg-19786）、世羅町（hbg-19917）

***Carex alterniflora* Franch. var. *fulva* Ohwi キイトスゲ**

山地あるいは山頂付近に生える。本種の分布域は、本州中部以北とされていたが、最近岡山県、鳥取県、兵庫県、愛媛県で採集され、西日本にも広く分布していることが明らかになった（星野ほか 2011）。県内では2003年に初めて確認されたが（斉藤 2003）、その後も新たな産地が確認されたので、記録する。自生地はブナ帯で、中国山地の尾根または山頂部である。

（文献）斉藤（2003）、植物誌補遺

（標本）安芸太田町（hbg-20238）、北広島町深山（hbg-14811）。2点とも星野卓二 同定 ＜芸北町＞

***Carex alterniflora* Franch. var. *arimaensis* Ohwi アリマイトスゲ**

基準産地は兵庫県の有馬で、近畿地方と岡山県で自生が知られていた（星野ほか 2002）。その後鳥取県（正木 2004）、愛媛県（得居 2006）と新産地が発見され、2009年に著者の一人、斉藤が広島県の自生を確認した。広島県の自生地は、県西部の道端のやや乾燥した場所である。

（文献）すげの会（編）（2009c）

（標本）北広島町豊平（hbg-17698；星野卓二 同定）、広島市安佐北区（hbg-19978）

***Carex pudica* Honda マメスゲ**

本州（宮城県以西）、伊豆諸島（神津島）に分布する日本固有の植物で、湿原周辺や草地に生える（星野ほか 2011）。同定の決め手となる有花茎が葉に隠れて見えにくいためと思われるが、広島県内の産地情報は少ない。

（文献）植物誌補遺

（標本）安芸高田市甲田（hbg-20121；星野卓二 同定）  
＜芸北町＞

***Carex puberula* Boott イトアオスゲ（広島県新記録）**

広島県植物誌はイトアオスゲ (*Carex breviculmis* R.Br. var. *discoidea* (Boott) Boott) を掲載している。これは大井 (1978) に従ったもので、勝山 (2005) や星野ほか (2011) はこれをヒメアオスゲ *Carex discoidea* Boott とし、*Carex puberula* Boott をイトアオスゲの名で別の分類群に扱っている。2011 年に北広島町で採集された個体が *Carex puberula* であった (hbg-20118; 星野卓二 同定)。

一方 *Carex discoidea* Boott (ヒメアオスゲ) は、海岸近くの草地や日当たりの良い林床に生えたとされ (星野ほか 2011)、広島県内で記録されている個体も宮島の海岸近くに生えたものであった (HIRO-MY-886, HIRO-MY-25800, HIRO-MY-32065 関太郎 同定)。しかし、今回、広島市佐伯区の海岸から約 10km 離れた山地 (海拔 500m) でもヒメアオスゲの自生を確認した (hbg-19881; 星野卓二 同定)。

#### Sect. *Acrocystis* ヒメスゲ節

##### *Carex mira* Kük. サワヒメスゲ

川岸の岩上に生えると言われ (勝山 2005, 星野ほか 2011)、これまで広島県で知られていた自生地も太田川流域の川岸の岩上であったが、今回、準平原地域のため池の土手に群生しているのを確認した。

(文献) 高木リスト, Okamoto (1965), 土井 (1983), 広島県植物誌, 植物誌補遺  
(標本) 三次市三和町 (hbg-20126; 星野卓二 同定)  
<広島市南原峡, 加計町>

#### Sect. *Molliculae* ヒメシラスゲ節

##### *Carex pseudoaphanolepis* Ohwi アイノコシラスゲ (広島県新記録)

シラスゲの中には葉があまり粉白でなく、雌小穂が垂れ下がらない型がある。これは、シラスゲとエナシヒゴクサの雑種として上記学名で記載された型に当たるが、星野ほか (2011) はこの型を載録していない。勝山 (2005) はこの型を雑種ではないとしたうえで独立した分類群に相当するかどうかは今後の研究課題だとしている。広島市南区で採集された個体は、アイノコシラスゲと呼ばれる型であったので、区別して記録する。

(標本) 広島市南区 (hbg-20241; 星野卓二 同定)

#### Sect. *Rostraloës* ミタケスゲ節

##### *Carex dolichocarpa* C. A. Mey. ex Kom. ミタケスゲ (広

##### 島県新記録)

湿原に生える。日本国内ではこれまで中部以北で知られていたが、最近、岡山県北部や九州 (大分県) にも隔離分布することが明らかになった (星野ほか 2011)。著者の一人近藤が、2009 年に広島県中央部の吉備高原面の湿地に本種と思われる植物が生育していることに気づき、後に星野卓二教授が確認したものである。周辺にヌマガヤ、ヤチカワズスゲ、マメスゲ、モウセンゴケ、ミミカキグサ、トキソウ、サギソウ、コタヌキモ、オモダカ、オオミズゴケ、サクラバハノキ、レンゲツツジなど湿地性の植物が見られた。これまでに 6ヶ所の湿地で生育を確認したが、そのうち一ヶ所では、2011 年に生育が認められなかった。また、最大の湿地は周辺の森林が伐採されており、今後、環境の変化による悪影響が心配される状態である。

(標本) 東広島市 (hbg-18553), 三次市三和町 (hbg-19886), 安芸高田市甲田町 (hbg-20249; 星野卓二 同定)

#### Sect. *Paludosae* シオクグ節

##### *Carex pumila* Thunb. コウボウシバ

海岸砂浜に生える。本種の県内の産地情報は、高木リストでは宮島、生野島、己斐、忠海、仙酔島、他の 2 地点で合計 7 地点、土井 (1983) には、宮島、廿日市、五日市、井口、府中町の 5 地点あったのに対し、広島県植物誌には倉橋島と走島の 2 地点で、宮島の自生が絶滅したことも報告していて、自生環境が悪化したことが推測される。

(文献) 高木リスト, Okamoto (1965), 土井 (1983), 江塚・松本 (1985), 広島県植物誌  
(標本) 三原市 (hbg-20054) <宮島 (絶滅), 倉橋島, 福山市走島>

#### Sect. *Carex* ビロードスゲ節

##### *Carex miyabei* Franch. ビロードスゲ

砂質の湿草地、山道脇に生える (星野ほか 2011)。Okamoto (1965) が報告していた北広島町大朝の自生地周辺では、2011 年の調査で、自生を確認できなかった。これは護岸工事や、ツルヨシなど大型の湿生植物の侵入によってビロードスゲに適した環境が減少したためと思われる。

(文献) Okamoto (1965), 江塚・松本 (1985), 広島県植物誌  
(標本) 北広島町芸北 (hbg-19998; 星野卓二 同定)

<大朝町大塚, 帝釈峽>

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり, 岡山理科大学の星野卓二教授と正木智美先生には標本同定と情報提供をしていただきました。東和環境科学株式会社の吉野由紀夫氏, 中外テクノス株式会社の佐藤克則氏には情報提供をしていただきました。広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所の坪田博美准教授, 向井誠二氏, 向井美枝子氏には標本閲覧の便宜を図っていただきました。広島市植物公園ガイドボランティアの北本照子氏には自生地調査の協力を得ました。お名前を記して感謝の意を表します。

## 引用文献

- 土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148pp. 博新館, 広島県.
- 江塚昭典 1994. 農業環境技術研究所所蔵植物標本目録 - 1993年現在 -. 農業環境技術研究所資料 15: 1-153.
- 江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E23: 1-107.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832pp. 中国新聞社, 広島県.
- 広島市植物公園(編) 2005. 高木リスト 広島県産高等植物目録. 広島市植物公園紀要 22-23: 5-129.
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子 2002. 岡山県スゲ属植物図譜. 229pp. 山陽新聞社, 岡山県.
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 781pp. (株)平凡社, 東京.
- 勝山輝男 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ. 376pp. (株)文一総合出版, 東京.
- 前川文夫 1949. 日本植物区系の基礎としてのマキネシア. 植物研究雑誌 24:91-96.
- 正木智美 2004. アリマイトスゲの新産地. すげの会ニュース 2.
- 正木智美 2009. すげの会ニュース 20: 19.
- 正木智美 2011. 広島県内新記録など<緊急ニュース>. すげの会ニュース 23.
- Okamoto, K. 1965. Taxonomic study of the Carices in the western Honsyu of Japan. Bull. Okayama Coll. Sci.

1: 1-105.

- 大井次三郎 1978. 改訂増補新版 日本植物誌 顕花篇. 1, 585pp. 至文堂, 東京.
- 斉藤隆登 2003. 芸北町産スゲ属植物(1) キイトスゲ. 刈尾(西中国山地自然史研究会会報) 12: 7.
- 世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展他・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要 28: 1-74.
- すげの会(編) 2009a. 日本産スゲ属植物分布図集(試案) no. 1. 33pp.
- すげの会(編) 2009b. 日本産スゲ属植物分布図集(試案) no. 2. 50pp.
- すげの会(編) 2010. 日本産スゲ属植物分布図集(試案) no. 3. 86pp.
- すげの会(編) 2011. 日本産スゲ属植物分布図集(試案) no. 4. 105pp.
- 鈴木兵二・豊原源太郎・安藤久次・中野武登 1979. 広島県の植生図解説書. 72pp. + 2付図. 広島県. 得居 修 2006. アリマイトスゲが愛媛県にも分布する. すげの会ニュース 8.

## 摘 要

1. 本調査で, ミタケスゲ, ホシナシゴウソ, ウスイロヒメカンスゲ, アオミヤマカンスゲ, イトアオスゲ, アイノコシラスゲの6分類群が, 広島県で初めて記録された。
2. 広島県植物誌補遺(2010)以降, 現地調査, 証拠標本調査, 文献調査等によって, 新たにスゲ属植物 13 分類群の広島県内の自生を確認した。
3. 広島県のスゲ属 9 種について, 新たな分布情報を追加した。

**Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture(6)**  
**Notes on the species of *Carex* (Cyperaceae), recorded in Hiroshima Prefecture**

Kenzo Hitotsubashi <sup>1)</sup>, Yoshiko Kondo <sup>2)</sup>, Takato Saito <sup>3)</sup>, Naoko Inoue <sup>4)</sup> and Tetsuya Sera <sup>4)</sup>

**Summary**

1. Distribution of six taxa of *Carex*; *C. dolichocarpa*, *C. maximowiczii* var. *levisaccus*, *C. sp.* (Japanese name 'Usuiro-himekansuge'), *C. multifolia* var. *pallidisquama*, *C. puberula* and *C. pseudoaphanolepis* are reported from Hiroshima Prefecture for the first time in this study.
  2. Based on previous literature, herbarium specimens and our investigations since 2010, an additional 13 *Carex* plant taxa, including infraspecific taxa, are confirmed for Hiroshima Prefecture.
  3. Additional informations about the distribution of 9 species of *Carex* plants in Hiroshima are given.
- 

1) Volunteer guide staff of the Hiroshima Botanical Garden

2) Nagatsuka, Asaminami-ku, Hiroshima City

3) Higashino Elementary School, Hiroshima City

4) The Hiroshima Botanical Garden